

大田区地域福祉活動 計画(リボン計画) について



社会福祉法人大田区社会福祉協議会
総務課 法人運営センター
庶務・計画担当 川澄

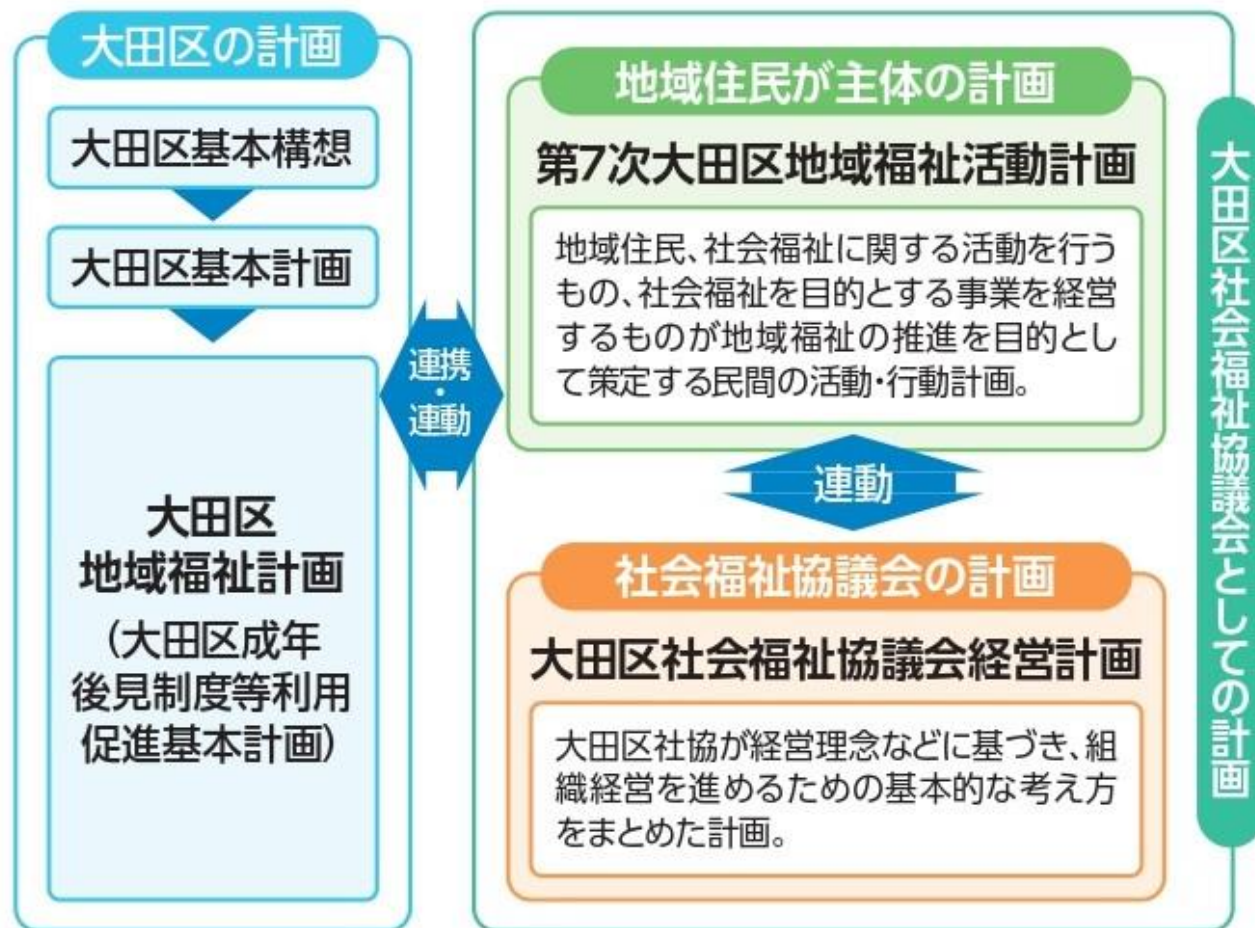
1.計画の位置付けと期間

この計画は、大田区の地域福祉の推進を目的とした「住民が主体の活動・行動計画」です。

計画期間は、令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5年間です。

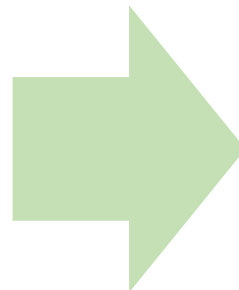
大田区が策定する「大田区地域福祉計画」と大田区社会福祉協議会(以下、大田区社協)が策定する「大田区社会福祉協議会経営計画」と連携・連動しながら進めます。

【計画の位置付け図】



2. なぜ策定したのか？何のために？

8050問題、社会から孤立…
ダブルケア、ヤングケアラー…
生活困難、外国にルーツ…
人と人つながりの一層の希薄化…



複雑・複合化した課題
制度の狭間の課題
新たな課題

「制度・分野の縦割り」
「支え手」「受け手」

超える

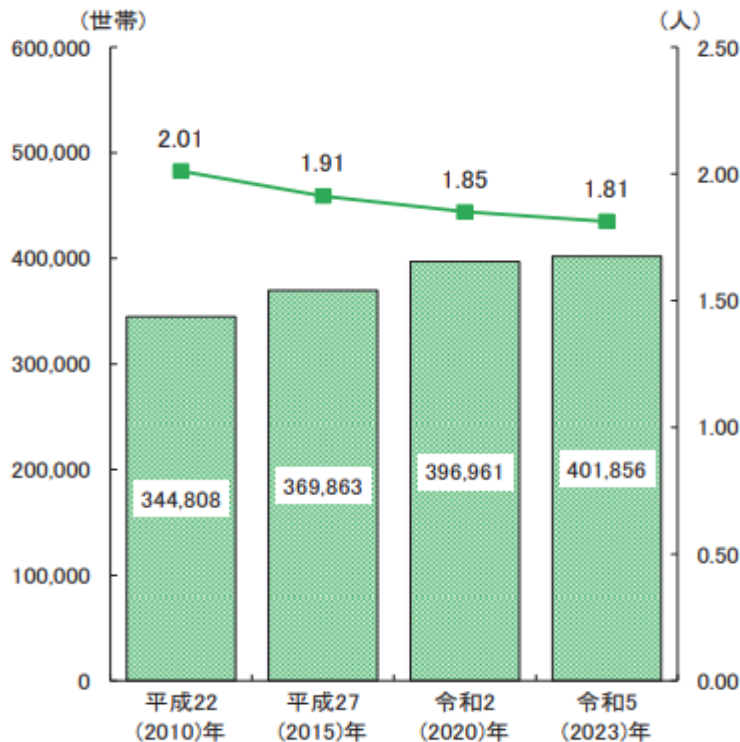
住民一人ひとりが
地域を共に創っていく

- 地域のさまざまな個人や団体と連携・協働して取り組む
- 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

3. 大田区の現状は？

世帯と世帯人員の推移

世帯数は増加傾向にある一方で、1世帯あたりの人員は、平成22(2010)年以降では2.0人を割っています。



出典: 大田区住民基本台帳より(各年1月1日現在)

単身世帯(ひとり暮らし高齢者含む)の増加

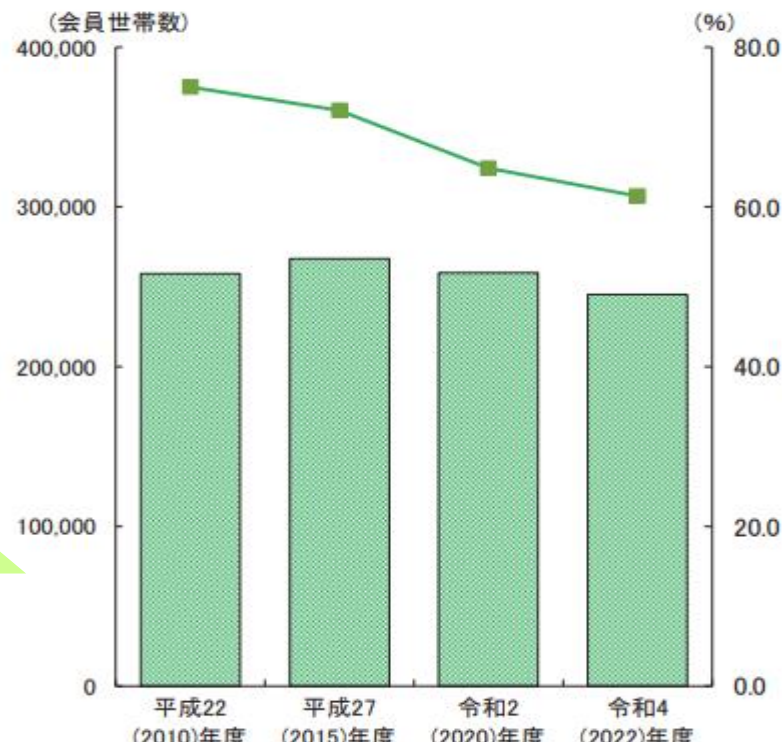
- ➡ 家族機能低下
- ➡ 社会的孤立

地域の共同意識・活力や文化などが失われる恐れ

- ➡ 地域のつながり低下
- ➡ 助けあいの低下

自治会・町会会員世帯数・加入率の推移

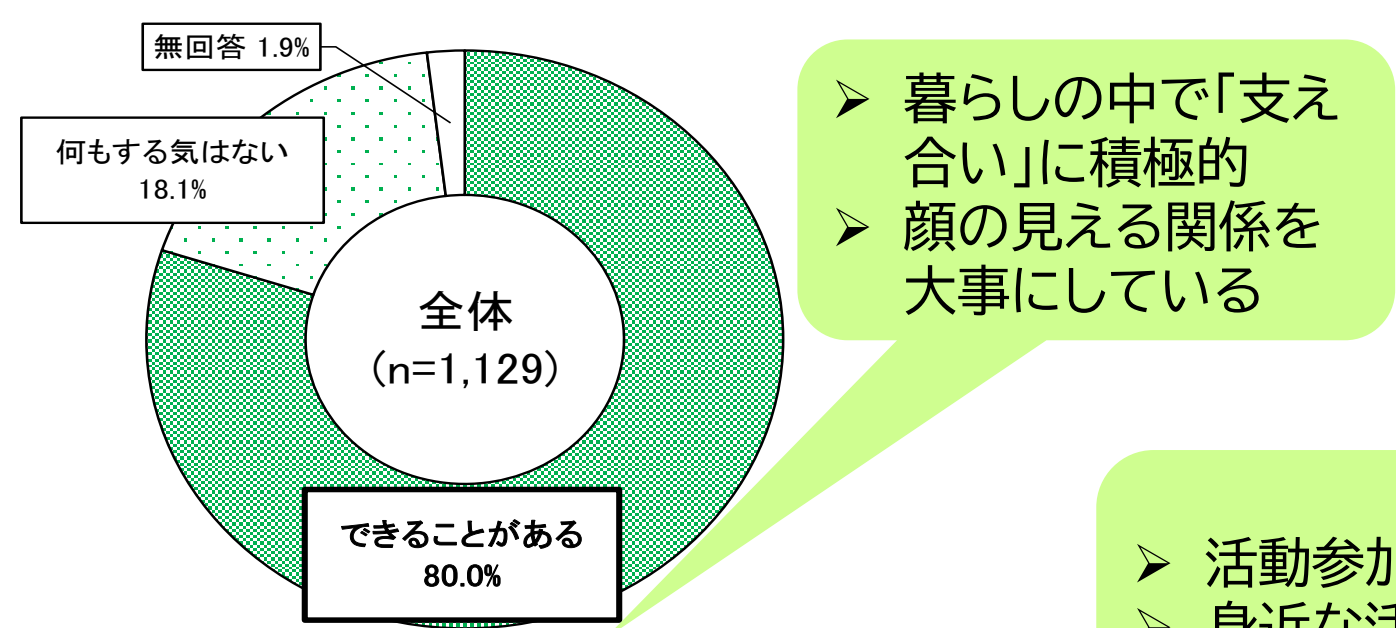
令和4(2022)年度の自治会・町会連合会の加入自治会・町会数は218となっています。会員世帯数、加入率はともに減少傾向です。



出典: 大田区資料より

4. 住民の思いは？（大田区地域福祉計画実態調査より）

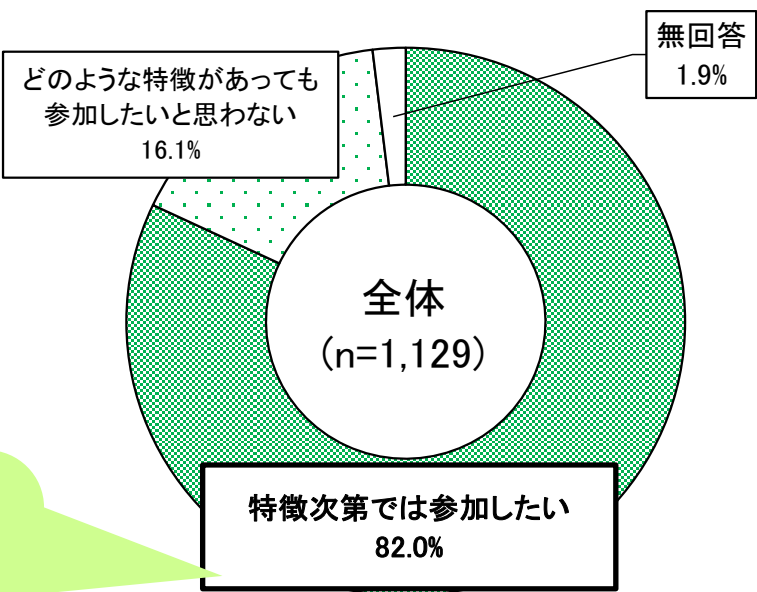
図表3 普段の生活で近隣の住民同士が自主的に
支えあうために自分ができること（区民：問24）



【できることの詳細、一部抜粋】

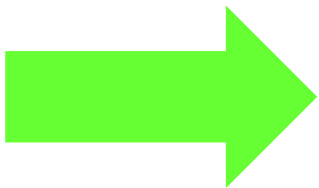
項目	%
近隣の方に積極的に挨拶をする	61.4%
近隣の方に日頃から積極的に声をかける	17.2%
地域活動やボランティア活動へ参加する	13.0%

図表9 地域活動やボランティア活動に
参加したいと思う特徴（区民：問18）



【特徴次第では参加したい人の詳細、一部抜粋】

項目	%
単発・短期間で参加できるもの	48.2%
自宅の近くで参加できるもの	36.6%
一人でも参加できるもの	28.5%



- 地域の力は内包されているのではないか。
- 地域の力を引き出し共に考え、活動できるのではないか。

5. 計画策定の視点

福祉における理念
福祉制度の考え方

大田区を取り巻く現状
大田区の実態調査

計画策定にあたり取り組む課題の整理

第6次計画の実績
第6次計画で見えてきたこと

住民懇談会の結果
4地域2回実施:計169人参加

4つの視点で策定

住民の全員参加による活動計画


住民ニーズを起点とする活動計画

住民の福祉活動を支える活動計画

地域福祉計画と一体的に進める活動計画



6. 本計画の特徴

- 
- 「大田区社協がやります」から「みんなでやりましょう」へ
計画の主語は「社協」ではなく「地域の皆様」
 - それぞれの「だからこそできること」に注目する
住民、地域活動団体等、大田区社協それぞれの
強み＝「だからこそできること」を具体的に紹介
 - 計画の評価は住民の皆様とともに
住民懇談会やアンケート等を通じた評価

第7次大田区地域福祉活動計画の体系図

基本理念

みんなでつくる

共につながりあう

まち

基本目標

5年後の地域の姿

取組

【基本目標1】

顔が見える関係を
大切にするまち

(1) ちょっとした声かけなど、
気軽に「つながり」をつくっている。

(2) 地域で起きていることについて、
住民同士が一緒に考えている。

取組1

日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。

取組2

同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、
地域の中での困りごとを受けとめよう。

【基本目標2】

自分の居場所や
役割があるまち

(1) 地域の中で生きがいを持って、
生活することができる。

(2) 地域で居場所づくりをする人や
機会が数多くいる(ある)。

取組3

地域の活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、
いきいきと過ごせるようにしよう。

取組4

居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。

【基本目標3】

身近なところで
ささえあうまち

(1) ひとりで悩まずに、相談することができる
場所(人)がある(いる)ことを知っている。

(2) 身近な人の困りごとに心を寄せつつ
互いに支えあっている。

取組5

地域の中には気軽に相談できる場所(人)がある(いる)ことを知り、
ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。

取組6

ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の
困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。

【基本目標4】

お互いを認めあい
誰もが自分らしく
暮らせるまち

(1) 一人ひとりの生き方を理解しあっている。

(2) 判断能力の低下などに関わらず、すべての
人が地域の中で自分らしく生きている。

取組7

地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。

取組8

障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、
権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。

7.本計画 の4つの キーワード

①つながりづくり

②居場所づくり

③支えあい

④自分らしく生きる

■ 5年後に向けてみんなと一緒にできること

以下は、8つの取組ごとの「住民」「地域活動団体、社会福祉法人・福祉事業者や企業」「大田区社協」の三者の立場「だからこそできること」の主な例です。

取組	立場	「だからこそできること」の主な例
1	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶まずは身近な近所の人とのあいさつからお互いを知るようにします。 ▶自治会・町会の行事や地域の防災訓練に参加し、顔見知りの人を増やします。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶活動を多くの人に知ってもらい、つながるきっかけとなるコミュニティイベントを開催します。 ▶地域でのイベントの際に、場所や人材の提供などを通じて地域の一員として協力します。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域福祉コーディネーターが積極的に地域に出向き、人と人とのつながりを支援します。 ▶災害ボランティアに関する講座などを開催し、参加された方向士がつながる機会とします。
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の中にどんな人が住んでいて、どんな困りごとがあるのか関心を持つようにします。 ▶地域住民同士仲間になって、できることから取り組みます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の課題について関係団体や機関と共有し、解決の糸口を探します。 ▶大田区社会福祉法人協議会を軸とした各地域での公益的な取組を実施します。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶プラットフォームから生まれた新たな地域の取組を支援し、地域づくりにつなげます。 ▶地域の中の活動団体の情報を整理し、必要とする方へ情報提供するしくみを整えます。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶得意なことや興味のあることを整理し、地域の中でどんなことができそうか考えてみます。 ▶何をしたらいいか悩んだ時には大田区社協に相談し、ボランティア活動などの情報を得ます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶「お試し活動体験」「活動見本市」など、気軽に活動に参加してもらえるプログラムを検討・実施します。 ▶ボランティアや担い手を地域に求めることで、ささえあいの機会づくりを行います。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶ボランティア活動や就労、地域活動などへの参加のきっかけを作り、活躍の場を広げます。 ▶活動の担い手を必要とする側と活動への参加を希望する側とのマッチングを行います。
4	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶生きづらさや望まない孤独・孤立を抱えている人を支える居場所もあることを理解します。 ▶思いを同じくする人と力をあわせて居場所づくりを実践します。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶居場所を運営している・いないに関わらず、互いに協力し、活動の輪を広げます。 ▶所有する建物の一室を居場所として無料で貸し出しするなど、活動を支援します。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶新たに居場所づくりに取り組みたい団体や個人からの相談に応じ、支援します。 ▶居場所の情報が必要な人に向けてさまざまな手段による情報発信を行います。

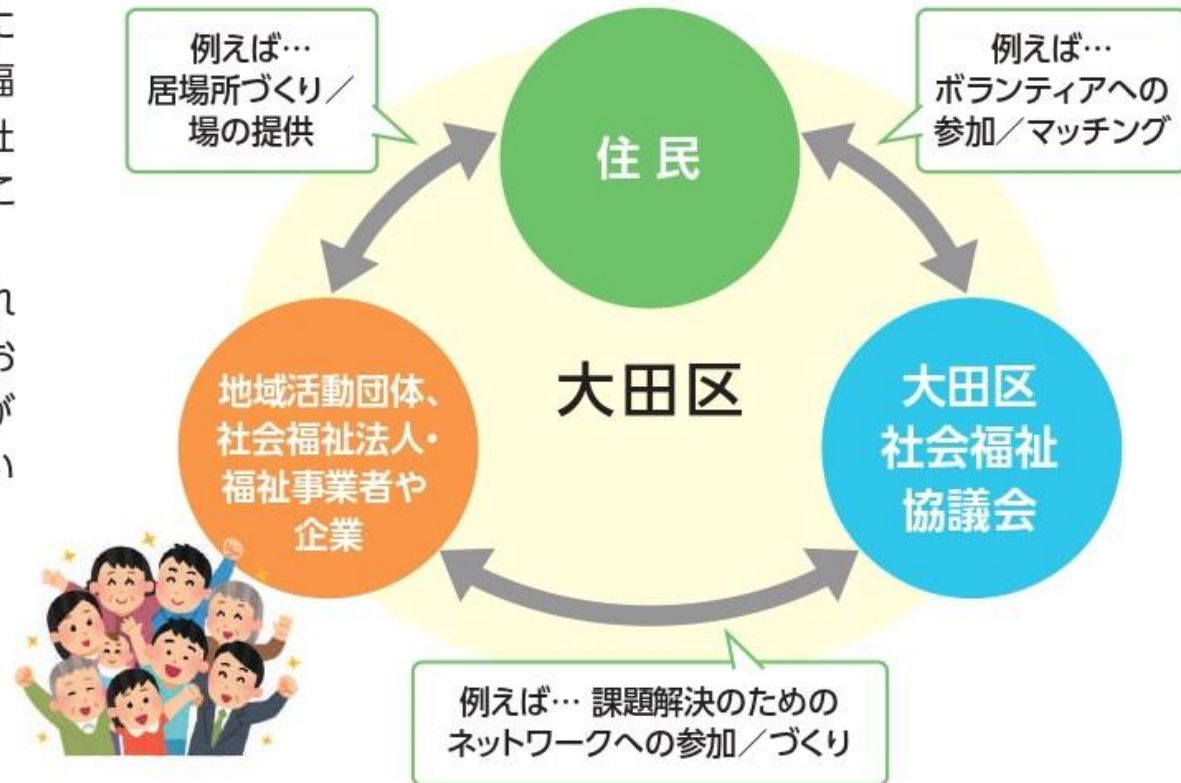
取組	立場	「だからこそできること」の主な例
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶自分の暮らす地域の中に、どんな相談窓口があるのかを調べてみます。 ▶困っている人を見かけたら、声をかけます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の困りごとに対し、団体として、どんなことができるかを話しあってみます。 ▶日々の活動を通じて把握した困りごとについて、専門機関などにつなぎます。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶困りごとを抱えた人に対し、チームで支えていけるような体制づくりを行います。 ▶地域の人からの困りごとを受けとめ、専門機関などにつなげます。
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の中で、どんなボランティア活動があるのかを調べてみます。 ▶フードドライブや切手整理ボランティアなど、自分のできる活動から始めてみます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域のイベントや区民活動フォーラムなどに参加し、他の地域活動団体と交流します。 ▶地域生活課題に対し、どのようなことができるかを考え、解決に向けた取組を始めてみます。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域のネットワークを生かしながら、解決に向けて取り組めるように調整します。 ▶ボランティア活動を行いたい人の相談に応じ、活動ができるように支援します。
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶地域の障害・高齢・こどもなどのボランティア活動に参加してみます。 ▶福祉施設で開催されるおまつりに参加してみます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶団体として実施している福祉学習のプログラムについて他団体と情報を共有します。 ▶地域に向けてできる福祉学習のプログラムなどについて話し合います。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶団体が実施している学習会などを広く周知し、多くの人が参加できるようにします。 ▶福祉学習の進め方やプログラムの内容などの相談に乗り、実施を支援します。
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> ▶自分自身の将来への備えについて考えてみます。 ▶老いじたく講演会や相談会など、地域のイベントに参加してみます。
	地域活動団体等	<ul style="list-style-type: none"> ▶障害や病気に関する理解を深めるため、勉強会などを開催します。 ▶「権利擁護支援検討会議」に参加し、専門家のアドバイスを得ながら、利用者支援を行います。
	大田区社協	<ul style="list-style-type: none"> ▶市民後見人や地域で意思決定支援に携われる人材の育成や支援に取り組みます。 ▶成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発を行い、制度利用の相談支援を行います。

8. 住民や地域の多様な団体と大田区社協の関わりあい

【 住民、地域活動団体等、社協の相関図 】

この計画では、「5年後の地域の姿」に向けて、「住民」「地域活動団体、社会福祉法人・福祉事業者や企業」「大田区社協」の三者のそれぞれの立場「だからこそできること」の例を紹介しています。

「だからこそできること」は、それぞれの立場の中で留まるものではなく、お互いのできることが関わりあい、つながりあい、そして広がりながら展開していきます。

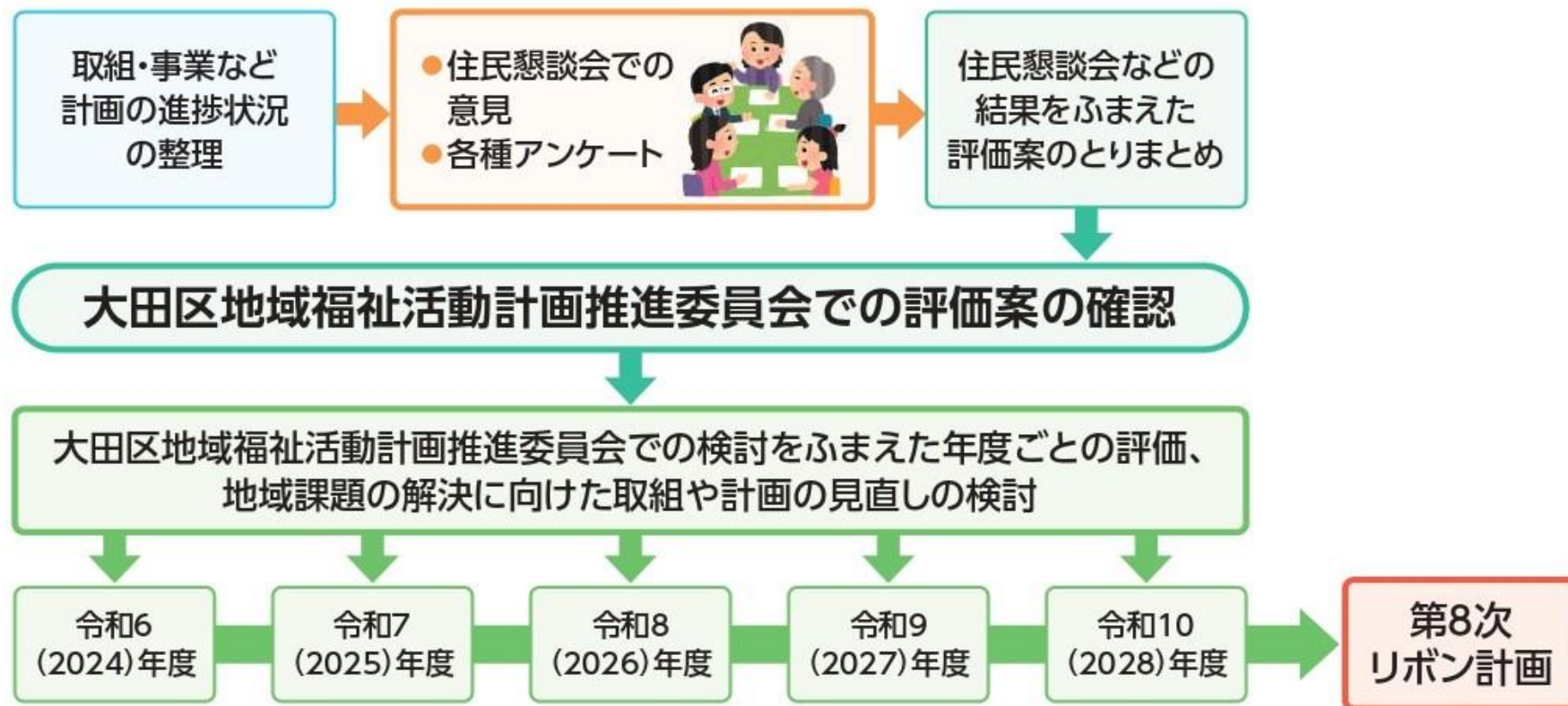


9.計画の評価・進捗管理

この計画の評価にあたっては、計画期間中、毎年度実施する住民懇談会の中で、参加者より意見をいただくほか、大田区社協が実施する各種事業でのアンケートの結果を活用します。

また、住民懇談会での意見をふまえた計画の進捗管理、地域課題の解決に向けた取組や計画の見直しの検討は、「大田区地域福祉活動計画推進委員会」にて行います。

【計画の評価と進捗管理の流れ】





「みんなで作る 共につながりあう まち」の実現に向けて
「居場所づくり」や「担い手の確保」の話をしませんか？

大田区で暮らす方、そして大田区で地域活動に関わる皆様とともに「5年後の地域の姿」を考えながら、参加者同士がつながりあえる場を目指して懇談会を開催します。

「人と人との交流が豊かな地域づくり」や「自分らしくいられる居場所」のこと、また「地域の担い手確保」や「協力して活動する仲間づくり」のことについて、一緒に話し合いませんか？
⇒ ぜひお気軽にご参加ください！

対象：大田区在住・在勤・在学の方、または区内で地域活動に関わっている方
定員：各会場40名まで
※お一人につき1会場のご参加とさせていただきます。

日時：令和7年7月27日（日）
14：00～16：00
場所：入新井集会所大集会室
（大田区大森北 1-10-4
Luz 大森4階）

①大森会場

日時：令和7年7月29日（火）
14：00～16：00
場所：羽田地域力推進センター
4階会議室
（大田区羽田 1-18-13）

②荏谷・羽田会場

日時：令和7年7月31日（木）
18：00～20：00
場所：大田区社会福祉センター
4階会議室
（大田区西蒲田 7-49-2）

③蒲田会場

日時：令和7年8月1日（金）
14：00～16：00
場所：調布地域庁舎
1階会議室
（大田区荏谷大塚町 4-6）

④調布会場

事前申込制
申込締切
7/18

10.住民懇談会

- ・今年も7月27日から8月1日にかけて、区内4会場にて開催し、合計で70名の方にご参加いただきました。
- ・各会場とも区内の福祉施設や地域包括支援センターからの参加もあり、民生委員児童委員・自治会町会・区民活動団体等様々な立場の方との懇談に加わって進行にご協力いただきました。

～ありがとうございました～



住民懇談会 でのご意見 (一部を紹介)

- ・ 住民懇談会は、参加して 意見を言って 聞いて 周りに伝えることが大切
- ・ つながりづくりのためには、自治会町会に加入して 様々なイベントや行事と一緒にやる必要があると思う
- ・ あいさつにひと言プラスしてちょっと歩み寄ってみる
- ・ 誰でもいつでも立ち寄れるゆるやかな居場所があるといい
- ・ 居場所を作りたいくても場所の確保が難しい
- ・ 孤立した人 世帯とつながれない どうすればよいか
- ・ “心あるおせっかい” で人のために何かをしたい
- ・ どう助けるかだけでなく「助けて」が言える環境も大切

11.リボン計画の着実な推進に向けて ～大田区社協が進めていく取組～

1

5年後の地域の姿に向けた「大田区社会福祉協議会が一緒に取り組むこと」「大田区社協だからこそできること」の実践と、住民や地域団体等の「だからこそできること」への取組支援や、取組のきっかけ・仕掛けづくり

2

「住民懇談会」や「たすけあいプラットフォーム」をはじめ、各種イベントや研修、講習会開催時でのリボン計画の紹介、意見聴取やアンケートの実施

3

地域共生社会の実現という目標を同じくする「大田区地域福祉計画」との連動・連携

ご清聴ありがとうございました

